



夕刊 (刊) 日一十月三年五和昭

平理髮組合の紛擾

幹部策動の調印蒐集から

三富床で押問答の未喧嘩

平理髮組合が鐵道俱樂部指した頻りと此の時時策を講じたの同町宮川床に於ける料でゐるので未だに圓滿なる金安に對して除名處分を敢て解決を見るに由なき状態を畫行するに至つた。紛擾の内情は、組合幹部連は最近は屢報したが兩間に立つ荒近に至つて初志貫徹の途を井平署長の

秩父宮殿下御通過

秩父宮殿下には盛岡騎兵廿三旅團御入隊中であらせられた御退營の御歸途十三日午後三時三十分妃殿下御同伴にて平驛を御通過遊されたので同町山内大佐外多数官民御送迎申上げ會津人會から梨子一折獻上御機嫌慶しく御嘉納あらせられた。

結果同町當業の連累

仲裁を退けて密かに出縣し衛生課長其他に運動を集め秩父川の次第を陳情すべく去十二日から同志連を以て此の蒐集運動を開始したが午後五時頃新川町三富床を訪ねた

宮川側

目的を達成せんとする組合側幹部の策も其後意の如き結果を見る能はざるもの

岩間岬の突角や小名

嶺と四倉間の數ヶ所、貯せ打や小屋打の好位置が少なくないので確かに腕、自信があるなら歸りを微笑むたけの獲物を逃がす様なことはなからう、次に

茸狩の

山深い一むき茸や、あひ茸は素より一般向でなく松茸産地の大野村白岩の右に出づるものは、同地於ける本年の

糸社八幡の祭

平町八幡小鎮座、八幡神社は後冷泉天皇の康平年間源頼朝が東征の際石清水八幡の神靈を奉じて關の勿來以北五里毎に勧請したる五里八幡を奉祀別命を祀る古社であるが来る十五日例祭

今年天候が順調 鳥獸類の繁殖も白岩の松茸の出もよい

盆過ぎて真夏の様な日中の繁越東線川前驛に下車して殘暑ではあるが朝夕の冷気南と北に分れる三坂、澤渡は立派な秋で愈々狩と茸及び又東郡川内方面に於ける狩のシーズンになつた今年

電話集

平局で十五日から廿四日迄

赤井薬師祭に臨時列車

平驛では来る二十一日、二日の赤井薬師祭當日の臨時列車に左記臨時列車を連轉する。

女から男に 離縁状

年増女の狂亂沙汰 山形縣南陽郡山上村武田安齋内縁の妻田中みづる二七は子供の二人もある身で

流出の 原因は機關車から飛火

五圓平驛構内に於て十二日午前七時半突然高萩より到着せる甘藷滿載の十噸貨車が發火したので驛員總出で大騒ぎを演じたが幸にも損害を出さずに消し止めた原因は同貨車屋蓋の破損箇所から機關車の飛火が這入つて燃えたものであると。

女流俳人 加千代女

賀加千代女 (-) 數寄庵堂投

女から男に 離縁状

年増女の狂亂沙汰 山形縣南陽郡山上村武田安齋内縁の妻田中みづる二七は子供の二人もある身で

流出の 原因は機關車から飛火

五圓平驛構内に於て十二日午前七時半突然高萩より到着せる甘藷滿載の十噸貨車が發火したので驛員總出で大騒ぎを演じたが幸にも損害を出さずに消し止めた原因は同貨車屋蓋の破損箇所から機關車の飛火が這入つて燃えたものであると。

女から男に 離縁状

年増女の狂亂沙汰 山形縣南陽郡山上村武田安齋内縁の妻田中みづる二七は子供の二人もある身で

死亡平町才樋小路一高

橋ふじ(三)十三日 平町大工町十五佐藤りう(三)十二日

俳句

女流俳人 賀加千代女 (-) 數寄庵堂投

流出の 原因は機關車から飛火

五圓平驛構内に於て十二日午前七時半突然高萩より到着せる甘藷滿載の十噸貨車が發火したので驛員總出で大騒ぎを演じたが幸にも損害を出さずに消し止めた原因は同貨車屋蓋の破損箇所から機關車の飛火が這入つて燃えたものであると。

女から男に 離縁状

年増女の狂亂沙汰 山形縣南陽郡山上村武田安齋内縁の妻田中みづる二七は子供の二人もある身で

流出の 原因は機關車から飛火

五圓平驛構内に於て十二日午前七時半突然高萩より到着せる甘藷滿載の十噸貨車が發火したので驛員總出で大騒ぎを演じたが幸にも損害を出さずに消し止めた原因は同貨車屋蓋の破損箇所から機關車の飛火が這入つて燃えたものであると。

女から男に 離縁状

年増女の狂亂沙汰 山形縣南陽郡山上村武田安齋内縁の妻田中みづる二七は子供の二人もある身で

流出の 原因は機關車から飛火

五圓平驛構内に於て十二日午前七時半突然高萩より到着せる甘藷滿載の十噸貨車が發火したので驛員總出で大騒ぎを演じたが幸にも損害を出さずに消し止めた原因は同貨車屋蓋の破損箇所から機關車の飛火が這入つて燃えたものであると。

女から男に 離縁状

年増女の狂亂沙汰 山形縣南陽郡山上村武田安齋内縁の妻田中みづる二七は子供の二人もある身で

